



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

トークイベント「野球とオリンピック」

館長 廣瀬 信一

8月7日(木)、午前10時30分から、当館殿堂ホールにおいてトークイベント「野球とオリンピック」を開催致しました。

登壇者は、1984年ロサンゼルス大会監督で2007年野球殿堂入りの松永 怜一さん、88年ソウル大会監督の鈴木 義信さん、92年バルセロナ大会監督の山中 正竹さん、96年アトランタ大会監督の川島 勝司さん、2000年シドニー大会監督の大田垣 耕造さん、そしてロサンゼルス大会で主砲として大活躍された広澤 克実さんという、歴代の監督、選手が一同に勢揃した大変豪華なトークイベントとなりました。

30年前の当日8月7日は、野球が初めてオリンピックでメダルを争う公開競技となったロサンゼルス大会の決勝で、米国をやぶり金メダルを獲得した日でもありました。イベントは2部構成で行われ、前半は松永さんと広澤さんによるロサンゼルス大会の思い出を語っていただきました。

松永さんは、「野球」と「ベースボール」の違いについて、広澤さんは決勝戦の前に、米国選手が音楽を聴くなどリラックスしているなか、ベースランニングをさせられた事、監督の「今日は緊張していいんだ、その中で力を発揮すればいい」との一言がチームを優勝に導いたと、懐かしそうに話されました。

後半は、歴代監督からそれぞれの思い出、今だから話せる秘話などを語っていただきました。

ソウル大会の鈴木監督は、米国の隻腕投手ジム・アボット選手が決勝戦でピッチャーライナーを胸で止めてアウトにしたプレーが、何がなんでも優勝するのだという気迫に満ちたものだったと語りました。



松永 怜一氏



広澤 克実氏



鈴木 義信氏



山中 正竹氏



川島 勝司氏



大田垣 耕造氏

初めて正式競技種目となり、強豪国「キューバ」が参加したバルセロナ大会の山中監督は、準決勝で台湾に負け、帰りのバスの中では悔しさのあまり誰一人一言も発しなかったエピソードを、アトランタ大会の川島監督からは、大熱戦の末、決勝でキューバに負けてしまったが大勢の観客が見守る中、涙ながらに場内を一周した思い出を話していただきました。

プロの選手が初めて参加したシドニー大会の大田垣監督は、三位決定戦で敗れてメダルを取れなかった時に、ビジネスライクで臨んでいたと思っていたプロの選手達がアマの選手達と共に悔し涙を流した思い出などを話されました。

最後に松永さんより、先達の努力、苦心の末国際的規模に発展してきた「野球」を、2020年東京オリンピックで、全員が一致団結して正式種目として復活するよう努力していきたいと宣言され、閉会となりました。



左から 広澤 克実氏、山中 正竹氏、松永 怜一氏、
鈴木 義信氏、川島 勝司氏、大田垣 耕造氏

殿堂入りの人々を語る (45)

父の思い出

田村 貞子 (1978年野球殿堂入り 浜崎 真二氏 次女)



1978年野球殿堂入り
浜崎 真二氏レリーフ

私は、父と一緒に暮らした時間が短かったので、父の思い出はあまりありませんが、昔の記憶をたどりながら、父のことをお話ししようと思います。

父との思い出の最初は、父が大連にいた頃です。私は、このころ小学校に入学しました。一番下の妹はまだ生まれていなかったの、父、母、姉、私と弟二人の6人家族でした。

お正月には、麻雀が大好きだった父と私たち姉弟で麻雀をやりました。私たちに麻雀を教えたのは、もちろん父です。私は麻雀が好きではなくやりたくなかったのですが、「4人いないと麻雀はできない」と言われ、仕方なく加わっていました。姉や弟たちはうまかったのですが、麻雀がうまくできない私に、父が後ろからあれこれ指図をしていましたのが思い出されます。

大連では、満州倶楽部チームの人たちがいろいろやってきました。若手の3人の選手が、家が見つかるまで我が家に下宿していた時期もありました。また、7、8人の人が家に来てバーベキューをしたりしました。父は、食事に気を遣うことはなかったのですが、好き嫌いはなく何でも食べました。そして大勢でわいわいと賑やかな食事が好きだったのです。

昭和22(1947)年3月に満州から引き揚げ、埼玉の北浦和に住んでいた父の弟(ドラゴンズの選手だった浜崎 忠治)のところに世話になっていました。この年の6月に阪急から監督として呼ばれ、家族みんなで関西へ移り住みました。私は父と一緒にいた時間は短かったのですが、私たちの前では物静かな父が、記者さんたちとはよくいろいろな話をしていたのを憶えています。

父は監督を辞めてから、伊東にマンションを借りていたことがありました。私の娘たちや弟の子どもたちは、毎年夏休みにこのマンションへ遊びに行っていました。娘が言うには、遊びに行くといつも一人で麻雀をしていたそうです。一人でどうやって麻雀をしていたのかわかりませんが、それほど麻雀が好きだったのです。

父は、遊びに来た孫たちと食事に行ったりしていたようで、「優しいおじいちゃん」だったようです。私の長女と父のことで忘れられないことが2つあります。1つは、長女がまだ赤ん坊のころのことです。ハワイへ行った父が、お土産に革のかわいいベビー靴と、上から下まで前がファスナーになっているワンピースを買ってきてくれました。当時、日本にはまだそのようなワンピースがなかったころです。父がどうやって見つけたのか、そのような服をなんで知っていたのかわかりませんが、もらった時は本当に驚きました。また、この時の革靴をお祖父ちゃんの思い出として、娘が今でも大切に残していることを知り、大変嬉しく思いました。

もう1つは結婚式です。あの父が泣いていたのです。父にとって私の長女は初孫でした。生まれる時は、親しい記者の人たちに「今度、孫が生まれる」と嬉しそうに言っていたそうです。その子の結婚式ということで、感無量になったのでしょうか。父の頬に涙が流れていました。

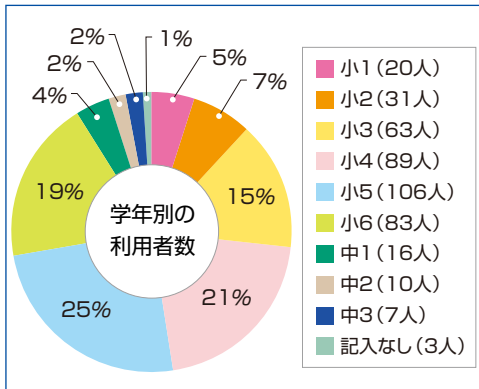
野球の世界では、歯に衣着せぬ思ったことをはっきり言う人という印象だと思いますが、私たちや孫たちにとって、父は物静かで面倒見がよく、優しい人でした。最近わかったことですが、私の家の近所に、昔プロ野球の監督7人に、サインを送ってほしいと手紙を出したという人がいます。その方から、7人の監督の中でサインを送ってきたのは父だけだったと聞きました。父は優しいことを言ったりすることは無いのですが、態度や行動で人を思いやる人でした。私は、この話を聞いたとき面倒見がよく、優しく父らしいなと思いました。父のことはあまり良く知らない私ですが、この話を聞いたときは大変嬉しく、また父のことを誇らしく思いました。

(9月29日に田村 貞子氏にお話を伺い、編集部でまとめました。)

2014年 夏休みイベント「野球で自由研究！」報告

今年も夏休み期間中の7月19日(土)～8月31日(日)まで、館内の図書室、企画展示室・イベントホール(7月31日(木)～)で、野球をテーマに自由研究を行う小・中学生をサポートする「野球で自由研究！」を開催し、野球の歴史や用具、野球場などの資料を提供しました。

「野球で自由研究！」に申し込んだ小・中学生は428人で、学年別では、小学校4年生と5年生、6年生がそれぞれ89人、106人、83人で、3学年の合計は全体の64%を占めました。今年は小学校1年生が20人(去年は9人)、2年生が31人(去年は29人)、と増加しました。低学年にも夏休みの調べ学習が広がってきている事がわかります。(グラフ参照)



	歴史	野球場	用具				変化球	記録	その他	
			用具	バット	グラブ	ユニホーム				ボール
小1	2		1	6	2		4	1	4	
小2	6		1	6	8	3	5	1	2	5
小3	17	2	6	9	20		10	1	1	9
小4	30	1	5	17	23	1	13		3	10
小5	30	4	3	12	25	5	16	7	3	10
小6	27	1	3	8	20	5	13	6		15
中1	3		1	4	3		2	3		1
中2				2	1	1	4	3		1
中3	2						2			2
記入なし				1			1			1
合計	117	8	20	65	102	15	70	21	10	58

テーマ別では、今年も野球の歴史と野球用具を調べる子どもが多く、歴史は428人中117人(27%)が、野球用具は、428人中272人(63%)で、内訳はグラブが102人、ボールが70人、バットが65人となりました。また、今年に変化球について調べる子どもが、昨年の12人(3%)に比べ、今年が9人増の21人(5%)と増加の傾向となりました。

「ミニミニ実験コーナー」

今年で3年目を迎えたプレゼンテーション企画「ミニミニ実験コーナー」を殿堂ホールにて、14日間(7/31、8/1、5、6、8、12、13、14、15、18、20、25、28、29)で14時～と15時～の1日2回、それぞれ約30分行いました。

14時の回は、①変化球のひみつ(風船や紙筒を使って、カーブの基本的な原理を説明。)②昔と今のグラブをくらべてみよう!(グラブの歴史の話と昭和初期(レプリカ)のグラブと現在のグラブを比較。)③イチロー選手のスパイクをはかってみよう!(重さを量り、小・中学生には白手袋を着用して実際に持って、軽さを体験。)



15時の回は、①硬式ボールのひみつ(ボールのルールを説明。ボールの製造工程見本を使い、硬式ボールのできるまでを説明。)②バレンティン選手のバットをはかってみよう!(バットのルールを説明。長さを測り、秤に乗せて重さを量る。小・中学生には白手袋を着用して実際に持って、重さを体験。)

昨年に比べて1回あたりの参加者が約50%増加するなど、大変多くのお子さんが参加しました。参加した子ども達は、メモや写真を取りながら、真剣に実験を見ていました。また、ミニミニ実験をもとに自由研究をまとめるお子さんも大変多く見られました。

「小・中学生のための館内ガイドツアー」

8月にイベントが無い土・日(8/2、9、10、16、17、24、30、31)の8日間 各日14時～1時間くらい)に、当館職員が館内を案内するツアーを行いました。展示されている資料を通して、自由研究のテーマになりそうな情報を提供しました。



「親子クラブ製作教室」



(8月21日(木)13:30～)
協力：ミズノ株式会社

今年は当館ホームページ等を通して6月28日～7月21日まで参加者を募集し、79通の応募の中から抽選で選ばれた15組30名の親子が「親子クラブ製作教室」に参加しました。

ミズノ社スタッフ4氏のご指導のもと、約2時間かけてひも通しの作業が行われました。自由研究向けにメモを取り、写真撮影をしながら作業をする親子も多く、各組ともお子さんが中心となって、世界でただひとつだけの自作クラブを見事完成させました。

「バット製作実演」

(8月22日(金)・23日(土) 各日11:00～12:00、13:30～14:30、15:00～16:00)
協力：ミズノ株式会社

当イベントは、2004年の開始以来11度目を迎えました。本年も渡邊 孝博クラフトマンにご来館いただき、各回1時間の実演を行っていただきました。

渡邊クラフトマンには、原料の木材やバット製作の工程についてのお話、バット製作の実演、紙やすりかけ体験(小学生3名限定)を実施していただきました。自由研究のために保護者が撮影をし、お子さんがメモを取る姿が大変多く見られました。

その後の質疑応答コーナーでは、お子さんからの質問に、丁寧にご回答いただきました。プロ選手のバットを作っているクラフトマンの仕事の一端を実際に見て、削ったばかりのバットに触れたり、クラフトマンとの交流をしたりと、お子さんたちにとって大変貴重な機会になったと思います。



今年は「野球で自由研究！」の新たな試みとして、日本野球機構にご協力いただき8月4日(月)、11日(月)に「夏休み審判学校！」を、8月19日(火)に「野球の記録をつけてみよう！」を開催しました。

「夏休み審判学校」

(8月4日(月)、11日(月) 各日とも 13:00～ 協力：日本野球機構)

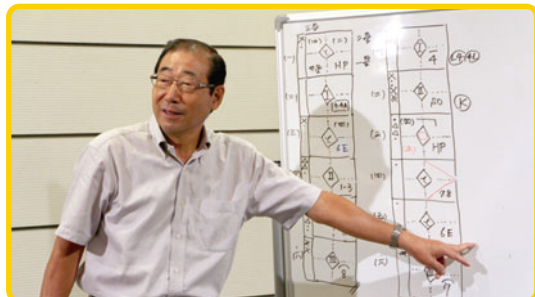


講師陣は、現在は野球規則委員で前審判長の井野 修氏、審判長の友寄 正人氏、審判技術員の山崎 夏生氏と平林 岳氏の4名で、審判員の歴史や、実際のコールの仕方、審判員が着用する用具等を丁寧に教えて下さいました。子ども達は、講師の方のお話を聞きながらメモを取り、写真を撮るなど、真剣に“授業”を受けていました。プロ野球の審判員から直接話を聞いたり、質問したり迫力あるコールの声に驚いたり、審判員の方々がつけている用具に触れたり、「アウト！」や「セーフ！」のジャッジの実技をするなど、参加してくれた子ども達は、普段できない経験をする事ができ、より深く野球に興味を持っていただけたのではないかと思います。



「野球の記録をつけてみよう！」

(8月19日(火) 13:00～)



講師は元NPB セ・リーグ記録部長 石井 重夫氏でした。まず、石井氏からプロ野球の記録方法の「慶應式」と一般的な「早稲田式」について説明がありました。続いて、スコアをつけるのに必要なポジションの番号や、ストライクとボールの書き方、「早稲田式」の記録の付け方を説明していただきました。そのあとに実際の野球の映像を見ながら、石井氏は白板へ、子ども達はスコアシートへ1球ごとに記入しました。子ども達は頭を上げ下げしながら、記録を付けては白板と見比べていました。プロ野球の元記録員から直接書き方を教えてもらい、一緒にスコアをつけるなど、子ども達は普段できない体験ができ、より野球に興味を持っていただけたと思います。



野球殿堂博物館 トピックス (2014年7月～10月上旬)

【7月14日】江藤 省三氏来館！



慶応義塾野球部総監督の江藤 省三氏が来館し、館内を見学されました。(兄・江藤 慎一氏のレリーフの前で)

【7月17日】JX-ENEOS野球部来館！

第85回都市対抗野球大会を前に、JX-ENEOS 野球部の大久保 秀昭監督と選手が来館し、館内の企画展「都市対抗野球展」などを見学しました。



【7月20日】JR東日本野球部来館！



第85回都市対抗野球大会の期間中、JR東日本野球部の堀井 哲也監督と選手が来館し、企画展「都市対抗野球展」などを見学しました。

【7月20日】杉浦 正則氏来館！



都市対抗野球大会で橋戸賞を2度受賞した杉浦正則氏(元日本生命野球部)が来館し、企画展「都市対抗野球展」などを見学しました。

【9月9日】IBAF事務局長 シュミット氏来館！



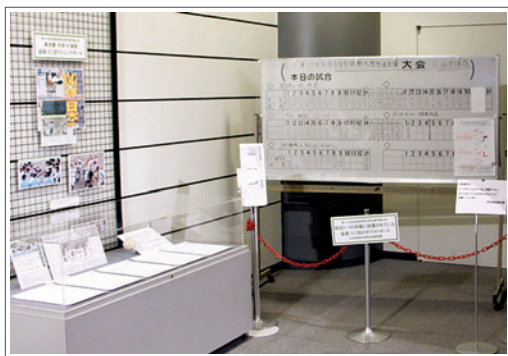
IBAF(International Baseball Federation)の事務局長マイケル・シュミット氏が来館し、館内を見学されました。

【9月9日】野茂 英雄氏来館！



野茂 英雄氏(2014年殿堂入り)が来館し、殿堂ホールで開催中の「平成26年野球殿堂入り特別展」など館内の展示を見学されました。

【9月12日】「延長50回」ウイニングボール、ホワイトボード等展示！



第59回全国高校軟式野球選手権大会(兵庫県明石トーカロ球場)準決勝の中京(東海・岐阜)―崇徳(西中国・広島)の対戦は0-0のまま3日連続のサスペンデッドゲームとなり、4日目の8月31日、延長50回表に3点を勝ち越した中京が3-0で激闘を制しました。

当館では、“世界最長”となる「延長50回」を記録した本大会準決勝中京―崇徳戦のウイニングボールと公式スコア、球場に設置していたホワイトボードを、公益財団法人日本高等学校野球連盟よりご寄贈いただきました。また、「延長50回」の準決勝と決勝の映像(一部)を上映しています。

【10月10日】山田 久志氏来館！

山田 久志氏(2006年殿堂入り)が来館しました。
(左から廣瀬館長、山田氏)



アメリカ視察報告

管理部長 中本 夏樹

昨年の二人（廣瀬館長と司書の茅根）に続き、今年は私と学芸員の稲垣がアメリカを訪問しました。目的は、米国野球殿堂博物館及びMLBを訪問し、協力関係を継続、深耕する事です。9月20日成田を出発し、ニューヨーク2泊、クーパースタウン2泊、ニューヨークに戻り1泊、ボストン2泊、9月28日に成田に戻りました。

「米国野球殿堂博物館」

- 22日 7:15 アムトラックに乗りニューヨーク・マンハッタンのPenn駅を出発、到着が30分ほど遅れ12:20にUtica駅。宿のご主人が車で迎えに来ていただきました。
- 14:00 クーパースタウンの宿（B&B）に到着しました。
- 15:00 米国野球殿堂博物館を訪問しました。



米国野球殿堂博物館のアイドルソン館長の部屋で
左から私（中本）、シーバー氏、アイドルソン氏

シニアキュレーター（学芸員）のシーバー氏には取蔵庫を中心としたバックヤードツアーや、学芸部の業務についての具体的な情報交換をさせていただきました。

アメリカでは資料（用具、写真など）収集の際に、館内で受入検討委員会を設け、受入の是非を検討し、決定しているというお話は、大変参考になりました。一方、資料の収集・保存・展示などでは同じような悩みがある事や、“お客様にいかに来館してもらうか”を考えた様々な取り組み、野球振興につながる教育プログラム（当館でいえば、夏休みの自由研究サポート）を重要視していることなど共通点も多い事が分かりました。

リサーチセンター（図書館）の担当者とも直接挨拶ができ、各部署の方々とより一層近い関係を築くこ

アイドルソン館長とは二日間にわたり約2時間、当館の取り組みや米博物館の組織および日常的な運営や殿堂入り表彰式について会談しました。

アメリカの殿堂入り表彰式は、職員が企画し、殿堂入りしている数十人の方々と共に運営しています。数千人のファンをクーパースタウンに迎えて、新しく殿堂入りされた方々をお祝いしています。

博物館創立年が、アメリカは1939年、日本は1959年という年数の差だけではなく、表彰式をはじめ収入構造、規模（例えば従業員数は、米が約90名とほぼ10倍）の違いを改めて認識しました。



米国野球殿堂博物館の館内
ベーブ・ルースのコーナー

とができました。

なお、2006年10月1日に締結した「日米野球博物館提携プログラム」により、お互いの維持会員は、会員証を提示すれば日米どちらの野球博物館も無料で入館できます。ぜひご利用いただきたいと思います。

「MLB事務所とレッド・ソックス」

ニューヨークのMLB事務所では、11月の日米野球の担当者と面会し、当館の概要や取り組みについてご理解いただくとともに、日米野球における資料収集についてご協力をお願いしました。

ボストンでは、レッド・ソックスのアジア戦略担当兼広報・吉村 幹生氏に、フェンウェイパークのツアーや球団・球場の歴史、社会貢献活動や集客策、球団と米国野球殿堂博物館との関係等、多岐にわたりお話しいただきました。

今回の視察で得た知識を、今後の博物館運営に役立てていきたいと思ひます。



MLBの事務所

2014年度の維持会員を募集中!



「公益財団法人 野球殿堂博物館」(旧・財団法人 野球体育博物館)は、昭和34(1959)年に野球専門の博物館として開館して以来、野球を中心とした資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

1. 会員の特典

- (1)当博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
- (2)無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3)アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。

*新個人会員には上記の特典のほか、『野球殿堂 2012』を進呈します。(ジュニア会員を除く)

*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球殿堂博物館オリジナルピンバッジ」を差し上げます。

2. 会員の種類と会費

年会費(4月～翌年3月迄)		
法人会員	1口	100,000円
個人会員	1口	10,000円
ジュニア会員(小・中学生)		2,000円

*ご入会月により、個人会員の初年度年会費が割引になります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費(個人会員)	10,000円	5,000円	2,000円

3. ご入会の方法

- ①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しただくかお送りください。
「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
- ②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部(TEL 03-3811-3600)
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

プロ野球12球団選手来館！

日本プロ野球選手会とNPBによるプロ野球80周年を記念した12球団選手の野球殿堂博物館見学で、7月～9月にかけてセ・リーグの選手が来館しました(パ・リーグの選手来館は前号に掲載)。12球団から計44名の選手にご来館いただき、各回とも、戦没プロ野球人の名前が刻まれた「鎮魂の碑」、プロ野球の歴史に関する展示、球団の歴代ユニホーム、来館選手のアマチュア時代の書籍、企画展等を約1時間かけて見学しました。来館時の写真とサイン色紙を館内で展示していますので、ぜひご覧ください。

7月4日 中日

球団変遷図を見る
選手たち



7月15日 ヤクルト

「鎮魂の碑」を訪れる
選手たち



8月3日 広島

アマチュア時代の
雑誌等を見る選手たち



8月26日 巨人

80年前の1934年日米
野球のポスターを見学



8月27日 阪神

アマチュア野球コーナー
を見学する選手たち



9月12日 横浜

往年の名選手の展示を
眺める選手たち



来館日および来館選手

5月25日 北海道日本ハムファイターズ

大野 奨太選手会長
中島 卓也選手
西川 遥輝選手
上沢 直之選手
大谷 翔平選手

5月28日 東北楽天ゴールデンイーグルス

川井 貴志選手
美馬 学選手
辛島 航選手

6月7日 埼玉西武ライオンズ

牧田 和久選手会長
十亀 剣選手
木村 文紀選手
金子 侑司選手
菊池 雄星選手

6月9日 千葉ロッテマリーンズ

岡田 幸文選手
鈴木 大地選手
西野 勇士選手

6月18日 オリックス・バファローズ

ディクソン選手
東明 大貴選手
西 勇輝選手

6月20日 福岡ソフトバンクホークス

松田 宣浩選手会長
本多 雄一選手
柳田 悠岐選手
中村 晃選手

7月4日 中日ドラゴンズ

大島 洋平選手会長
雄太選手
吉見 一起選手
堂上 直倫選手

7月15日 東京ヤクルトスワローズ

森岡 良介選手会長
小川 泰弘選手
中村 悠平選手
赤川 克紀選手

8月3日 広島東洋カープ

前田 健太選手
大瀬良 大地選手
戸田 隆矢選手

8月26日 読売ジャイアンツ

村田 修一選手会長
西村 健太郎選手
橋本 到選手

8月27日 阪神タイガース

能見 篤史選手
岩貞 祐太選手
藤原 晋太郎選手

9月12日 横浜DeNAベイスターズ

下園 辰哉選手会長
高崎 健太郎選手
井納 翔一選手
三上 朋也選手



来館時の写真とサイン色紙（休憩コーナー）

博物館からのお知らせ

▶販売中！

●侍ジャパン記念グッズ

ただいま、侍ジャパングッズを販売しております。

東京ドームで11月14日～16日に行われる「日米野球」に、ぜひ侍ジャパングッズを持って、侍ジャパンを応援しましょう！

- ・レプリカユニフォーム (8,430円)
(ホーム・ビジター)
- ・マフラータオル (1,950円)
- ・リストバンド〈2コ組〉 (1,730円)
- ・キーホルダー (830円)
- ・ピンバッジ (720円)
- など

(価格はすべて税込)

●NPB統一球オーセンティックボール

シリアルナンバー入りNPB承認シール付き

当博物館受付にて販売しております。
※郵送希望の方は、「公認球希望」と明記の上、代金(公認球代+梱包送料)を現金書留で当博物館までご送付下さい。



2,600円(税込)



※2014年使用球

公認球：1個 2,600円
梱包送料：1個 250円 2～3個 400円 4個以上 送料無料
送付先：〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
公益財団法人野球殿堂博物館 公認球係

●2014野球殿堂入り記念ポストカード

4枚1セット 定価 400円(税込)

2014年野球殿堂入りされた野茂 英雄氏・秋山 幸二氏・佐々木 主浩氏・相田 暢一氏のレリーフ写真をポストカードにしました。

今年の殿堂入りの記念にぜひお買い求めください。



博物館のご案内	場所	東京ドーム21ゲート右
	開館時間	3月1日～9月30日 AM10時～PM6時(入館は閉館の10分前まで) 10月1日～2月末日 AM10時～PM5時(30分前まで)
	入館料	大人 600円(500円)
		高・大学生 400円
小・中学生 200円(150円)		
休館日	月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館) 年末年始(12月29日～1月1日)	

《11月・12月・1月の休館日》

11月 10日・17日
12月 1日・8日・15日・22日・29日・30日・31日
1月 1日・19日・26日

●編集後記 紙面の都合により、「コラム 博覧/博楽」「知ってほしいこんな資料」「こんにちは図書室です」「リレー随筆」はお休みします。

野球殿堂博物館 Newsletter 第24巻 第3号

2014年10月28日発行(年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
(旧・財団法人 野球体育博物館)
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>

寄贈および展示セレモニー

【8月8日】岩瀬投手(中日) 400セーブ達成記念球寄贈!

岩瀬 仁紀投手(中日ドラゴンズ)は、7月26日の対巨人戦(ナゴヤドーム)で今シーズン18セーブ目を挙げ、プロ野球史上初の400セーブを達成しました。当館では、岩瀬投手および中日ドラゴンズのご協力により、400セーブを達成した記念ボールをご寄贈いただきました。



【8月23日】谷繁選手兼任監督(中日) 26年連続本塁打達成球、バット寄贈!



谷繁 元信選手兼任監督(中日ドラゴンズ)は、7月22日の対DeNA戦(横浜)の二回に今シーズン第1号本塁打を打ち、プロ野球史上初の26年連続本塁打を達成しました。当館では、谷繁選手兼任監督および中日ドラゴンズのご協力により、同記録を達成したホームランボールと達成時使用バットをご寄贈いただきました。

【10月2日】山本昌投手(中日) 最年長登板記念展示!

山本 昌投手(中日ドラゴンズ)がプロ野球最年長登板記録を達成した2014年9月5日の阪神戦で投げた第1球と、その試合で着用したユニホーム、使用グラブ、スパイクを展示しました。これらの資料は、10月1日、ナゴヤドームでの中日対DeNA戦前に、山本 昌投手よりご寄贈いただきました。



【10月7日】女子野球W杯4連覇達成 マドンナジャパン来館! 優勝トロフィー展示!



第6回IBAF女子ワールドカップ2014宮崎大会で、女子野球日本代表チームは大会4連覇の偉業を達成し、志村 亜貴子主将、MVPを受賞した里 綾実投手ら14名の日本代表選手にご来館いただきました。当館では、今大会の優勝トロフィーおよび過去3大会の優勝トロフィーを展示しています。